



生活クラブ風車



夢風News

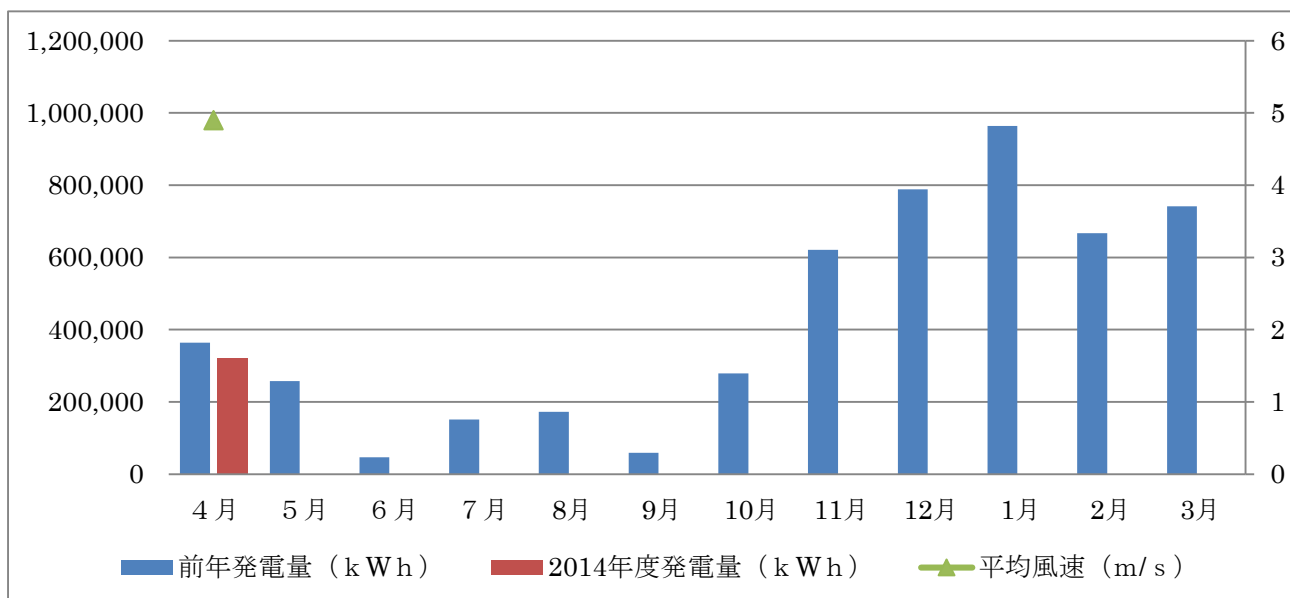
Vol.23

●発行 2014. 5. 15 一般社団法人グリーンファンド秋田

●発行責任者 半澤彰浩 (代表理事) ●編集責任者 鈴木伸予

■ 2014 年度 発電実績 ■

	発電量 (kWh) 【前年比】	平均風速 (m/s)	設備利用率 (%)
4 月	320, 524 【 88. 0%】	4. 9	22. 4



○4月は順調に稼働しましたが、昨年に比べて風況が弱く発電量は前年を下回っています。

■グリーンファンド秋田理事会 報告 ■

2014年5月11日(日)にグリーンファンド秋田の2013年度第5回理事会を開催しました。今回初めて、グリーンファンド秋田の理事であるNPO法人北海道グリーンファンドと(株)市民風力発電のある北海道で理事会を開催しました。

○2013年度事業活動報告および決算報告を承認しました。2013年度売上は計画比116.5%、前年比222.5%の実績となりました。2013年3月より固定価格買い取り制度(FIT)に切り替えたため、前年を大きく上回る売電収入となっています。

○2014年度事業活動方針及び予算(案)について承認しました。

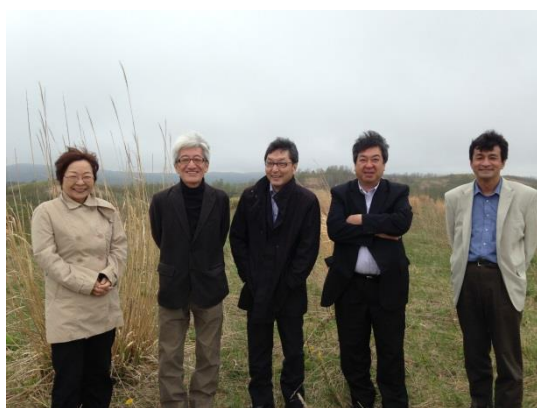
○その他、社員総会の開催に向けて、ギアボックス工事の補償について、メーカー保証期間終了に伴う対応について、夢風ニュースの年間発行計画等について確認しました。

グリーンファンド秋田の理事会を北海道で開催するに伴い、自然エネルギーの視察を行いました。

○石狩の市民風車視察

北海道グリーンファンドは、2001年9月に市民風車「はまかぜちゃん」の建設からはじまり、夢風を含め現在16基の風車の運営に携わっています。累計設備容量は24,990kWで、年間発電量は6,000万kWh（一般家庭1万6千世帯分）となっています。石狩市には、2005年に「かぜちゃん」「かりんぷう」が誕生し、その後2008年に2本の風車の間に「かなみちゃん」が誕生しました。

海の近くの工業団地に建つ3本の風車は、定格出力1500kWと夢風よりも一回り小さなタイプです。風車のタワーには、出資をした方たち全員の名前が載せられており、おおぜいの思いの詰まった風車だと実感することができます。



○厚田の風車建設予定地視察

2014年度に2本の風車の建設が予定されている場所を視察しました。厚田風力発電事業では、売電収入の一部を石狩市に寄付し、基金として「あつたの森づくり」や子どもたちへの環境教育、その他石狩市内の環境保全活動に活用される予定です。地域の自然を守り育て、子供たちに持続可能な未来を贈る事業をめざしています。

○生活クラブ北海道「生活クラブ館北広島」見学

北広島市にある生活クラブ北海道の福祉のまちづくりの拠点施設「生活クラブ館」を訪問させていただきました。2014年3月にオープンしたばかりとの事で、屋根には太陽光も設置されています。

1階はデイサービスとおむすびcafe、
2階は子育て支援親子ひろばなどで、それぞれワーカーズによって運営されています。
*写真左:注文を受けてから握るおむすびが評判です。



○ニセコ町 王子製紙尻別第一・第二発電所視察

明治43年、苫小牧市に製紙工場を建設した㈱王子製紙はこの工場を稼働する電力確保のため、石狩川や尻別川流域に多くの水力発電所を建設していきました。羊蹄山を水源とする尻別第一発電所を大正10年に建設し、80年経った現在も現役の発電所として稼働し続けています。出力は、第1発電所が6,000kW、第2発電所が7,000kWとの事です。尻別川では豊富な水量と自然を生かしてラフティングなども行われています。

また、㈱市民風力発電より、ニセコ町管内の河川での小水力発電の検討状況の説明を頂きました。



グリーンファンド秋田・監事から

・ひとことエッセイ・



3月終わりの土日、にかほ市を訪問しました。今回は連携推進協議会の幹事会に参加するためです。前回訪問は2年前の風車の落成式で5月ゴールデンウィーク後にも拘わらず、信じられないほど寒かったことを覚えています。今回は天気にも恵まれ、温かく、鳥海山も顔を覗かせてくれました。

一日目の協議会終了後には、昨年神奈川で取組んだ「生活クラブ風車の里からセット」の生産者の皆さんと懇談・懇親の場を持ちました。風車をキッカケに、人と人の交わりが生まれ、特産品取組という交流事業が始まったことを、今後につなげ、深めていくことが大事になります。

ローカル to ローカル、ピープル to ピープルという関係性を実態化していくことが、まちづくりとしてのエネルギー運動の中心テーマであるからです。

二日目はでんべいかれい生産者グループ代表の渡辺郁子さん、伊藤製麺所代表の伊藤実さんの工場見学・交流を行うとともに、にかほ市企画情報課長の齊藤義行さんの案内で小水力発電候補地の視察を行うなど、有意義な一日を過ごしました。

生活クラブ神奈川専務理事 大石 高久

にかほの風だより ～ にかほの生産者・佐藤玲さんからのメッセージ ① ～

●今月号からにかほ市の特産品の生産者の方から、にかほのご紹介や様子を伝えて頂きます。●

生活クラブ組合員の皆様、いつもありがとうございます！！
秋田県にかほ市でいちじく加工を営んでおります勘六商店 4代目の佐藤玲と申します。

この度、生活クラブとにかほ市をつなぐ＜潮風＞に、
S木さんの穏やかながらエッジの利いたオファーと、H澤さんの柔和な表情の奥の「やれ！」というオーラに根負け、誠に恥かしながら駄文を寄せさせて頂く事になりました。
ご笑読いただければ幸いです。



弊店はいちじく屋ですので、日頃いちじくに関する事は少しだけ長い時間を考えております。

ですので、いちじくを通じてにかほ市の特徴などをご案内できればと思います。

さて、当地にかほ市はいちじくの営利栽培では日本最北の地です。
秋田でいちじく？と不思議に思われる方もいらっしゃると思います。
それもそのはず、いちじくへの秋田県民の思いは、首都圏の皆さんとは似て非なるものです。
例えるなら同じようなボールを使うスポーツですが、
アメフトとラグビーくらい違います（笑）

首都圏の皆さんに馴染みのあるいちじくは、フレッシュなものだと思います。

あずき色に熟した人の拳程度の大きさがあるいちじく。

これを豪快にガブリ！美味しいですよ～

ところが、秋田県人は生いちじくの食経験者はかなり少ないのです。

秋田では、いちじくといえば、いちじく甘露煮です。

ウソではありません。



何故、日本全国（正確には東北以西）ではいちじく＝生食なのに、

秋田ではいちじく＝甘露煮なのか？

この差異は、実は秋田特有の食文化なのです。

そして、何故にかほ市がいちじく最北の栽培地なのか？が徐々に見えてきます。



続きは、次号にて・・・